

SORA

web magazine 2019.dec. vol.127

MADAGASCAR

PHOTO & TEXT: YASUAKI KAGII

Travel

MAP
CLICK!



マダガスカル島 ノシベの海の今

以前、成田からマダガスカル航空の直行便が就航していた時は、少し情報があつたマダガスカル島のノシベの海。しかし、ここ数年は、アクセスの不便さから、少しダイビングの候補地として外れていたのかもしれない。しかし、エチオピア航空が、アデイスアベバ経由で就航して以来、またジリジリと注目され始めたマダガスカルの海。少しシーズン前に行った取材となったが、マダガスカル・ノシベの海の今をお届けします。



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



先ずは沖合に浮かぶ TANIKELY(タニケリ)島へ

アンバトゥルアカという海岸線が約2キロ伸びている。その少し湾曲したライン沿いには、リゾートやレストラン、ダイビングセンター、ウォーターアクティビティのお店、お土産物屋さん軒を連ねている。日曜日の朝は、ダイビングセンターの前のビーチに牛たちが沐浴に来るということで、まずそれを見学。そして専用のダイビングボートで、ポイントへ。初日に向かったのは、TANIKELY(タニケリ)島。沖合15分の所に浮かぶ島である。

1本目は、島の周囲にあるタニケリ・アクアリウムというポイントでエントリーする。ここは2008年から海洋保護区になっていて、一切の釣りなどが禁止されているので、魚影は抜群だとガイドのシルビアは話してくれた。エントリーしてまず迎えてくれたのは、青く鮮やかなハナムコの群れ。ダイバーが接近することを許してくれた。そのままシルビアの後を追ひ、水深18mほどの海底へ。そして、フエダイの大きな群れを発見。白い砂地や柔らかなサンゴの上を泳ぎ、爽やかな雰囲気包まれる。チリンチリンと音が鳴るので、行ってみると、そこには大きなコチが寝そべっていた。その後もシルビアは、ヨーロッパンっぽくないガイディングで、ウミウシなどのマクロの生き物を披露してくれる。そして、激しくベルが鳴り、彼女に接近していくと、何やら大きな生き物が見える！でも、撮影できる距離でもない……。シルビアがジェスチャーでサメだと伝え、ギターを弾く真似をした。後から聞くと、ギターレイのようだ。このポイントでは時折出現するらしいが、シャイでなかなか接近を許してくれないとのこと。是非、近くで目にかかりたい。その後も川のように群れるキンセンフエダイの群れを撮影していると、ダイブタイムが80分にもなっていた。超ロングダイブ。でも、これはこのダイブに限ったことではなかった。





2本目は、島の外洋側に向かいエントリー。『ここはサンゴ礁がいっぱいなので、アンカーを打たないで、みんなで一緒にエントリーして、そして潜降しましょう』という。1本目は砂地にアンカーを降ろしたのだけど、それもアンカーを海に放り投げる感じではなくて、優しく降ろす感じだった。それらの自然との付き合い方の輪の中にいると心地よい。水深を18mほど落としていくと大きなシーファンが連立する。大きさも迫力のある感じで、周囲に魚がいて、そのスケール感がよくわかる。ブリーフィングで、『ここは、カエルアンコウや、ボロカサゴ、ウミテングなどが見れるのよ!』と言っていた。シルビアが今回、見せてくれたのは、ハダカハオコゼだったけど、それでも、他にウミウシやカメなどを披露してくれた。最後に浅瀬のサンゴ礁を堪能する。そして、ダイブタイムはまた80分超え。最後のゆっくりまったりサンゴ浴が気持ちいい。



お魚まみれファーストダイブを終え、インターバルの時間は、ボートの上でコーヒーを飲んだり、クッキーを食べたり。そして、TANIKELY(タニケリ)島に上陸して、ビーチの風景を楽しんだり、また5分ほど、少し小高い丘に登り、灯台に向かい、高台から周囲の景色を楽しむ。撮影日は、お天気が曇りだったので残念な感じだったが、それでも行き帰りの林の中で、シルビアが猿の鳴き声を真似して、遠いけれどレミュール(サル)を見せてくれた。野生児のよう……(笑)。そうそう、クッキーを楽しんでいるときに、一緒に潜ったフランス人の女性ダイバーに、「80分も潜ったので、びっくりしたよ!」っていうと、「フランスでは普通よ! 空気が少なくなるまで潜る!」と笑顔で答えてくれた。確かにブリーフィングの時に、シルビアは「残圧が100barと50barになったら教えて」と話していた。で、「ダイブタイムは?」と聞くと、「90分でも大丈夫よ!」って言っていた。冗談ではなかったんだ……(笑)。





MADAGASCAR

Travel

知らない海に 潜る冒険!!!

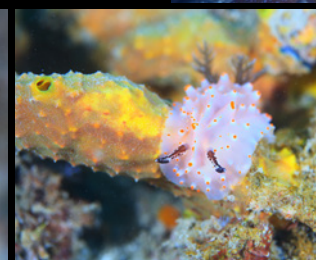
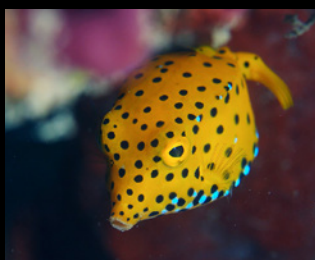
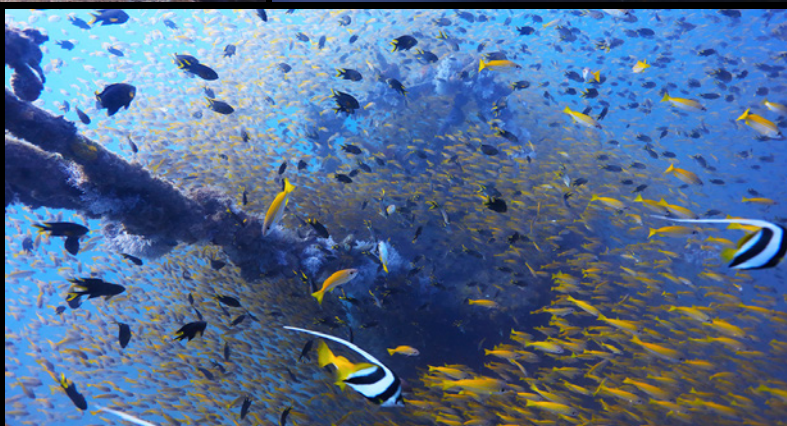
2日目。朝7時半に宿泊しているバンガロー前のビーチまで迎えに来てもらうので、移動は楽チン。そのままポートに乗り込む。朝一番のポイントへ。ポイントは前日から言われていたが、今日は沈船に潜るという。約10分ほどでポイントに着き、機材を確認していると、私のマスクがない。昨日から、カメラ以外の器材の管理はスタッフに任せていて、どうも忘れたようだ。すぐにポートをダイビングセンター前のビーチまで走らす。シルビアは、「sorry」と申し訳なくしているけど、私もポートを乗り込んですぐに確認しないのが悪い。と言っても約10分でポイントに着き、それほど時間のロスもなく、無事にマスクをピックアップすることができた。そして一路、沈船ポイントへ。ブイのロープ沿いに潜降を開始する。沈船の名前は、mitsio ミツオと言い、2007年にダイビングのポイントとして沈められた。水深28mの海底に鎮座し、平均水深18mと暗いので観察になる。深度を下げながら、キンセンフエダイの大きな群れが見えてきた。それもかなり大きい。なんと沈船が見事にキンセンフエダイに覆われていた。これまで見た沈船の中でも、沈船という形を残したまま、これほどの魚群に囲まれているポイントは他に見たことがなかった。やはり知らない海に来るべきだと思った。ただの沈船ではなかった……。

どこからどう撮影してもキンセンフエダイの群れと人工物という面白い景色がそこにある。船体には、幾つものミノカサゴが住み着き、黄色いイボヤギが群生している。周囲には中型のアジも回遊している。見事に魚礁としての役割を果たしている。水深があるので、ダイブタイムが40分で少しずつ浮上を開始したが、とても満足のいくダイビングとなった。安全停止をしているとブルーウォーターの向こう側にツバメウオが何尾も泳いでいる。実は、水面に漁師が幾人かいて、釣りをしていただけ、もし釣り人が居なければ、ツバメウオたちは、群れとなり私たちの鼻先までやってくるという。是非、ツバメウオも絡んだ、魚群まみれ沈船を撮影してみたい。

また来て潜りたいポイントが増えた！

MADAGASCAR

Travel



2本目のダイビングは、もう少し町よりのポイントを選択。ということは少レインサイドのポイント。名前はインチャントッドフォレスト。シルビアは、個人的には、このポイントが一番好きだという。水深18mほどの海底には、カイメン、シーファン、サンゴ、スポンジなど様々な底生の環境が寄り集まり、造形的にも自然のままの海底を見ることができる。そのポイントは、シルビアのお気に入りのポイントで、楽しみにしてエントリーしたが、透明度があまり良くなく、彼女のいう魅力をうまく撮影することができなかった。なので、この海ではあまり見かけないクマノミや、きっとここでしか見られないようなスズメダイを撮影した。

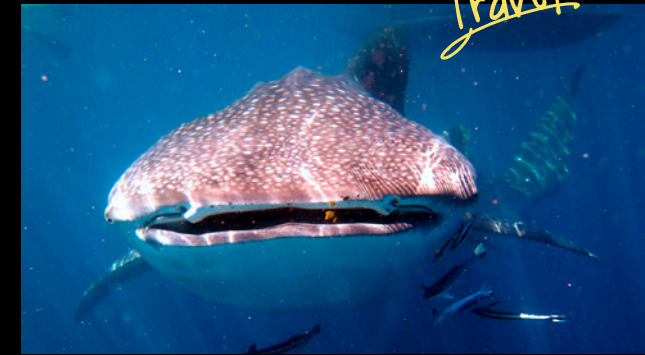
ハンマーヘッドが出たけれど……

3日目。1本目は、沖合に向けて約30分ほどボートを走らせ、外洋に面したポイントに向かう。一番サメに会う確率が大きいポイントで、その名も「シャークポイント」。さすが外洋に面しているだけあって、ボートから眺める水面下も水の色も青い。潮の流れも、インゴーイングの時だけ、ここにサメが集まるということで、世界中の他のエリアのサメポイントと同じようなタイミングでエントリーする。エントリーして、まず嬉しかったのは、インド洋の固有種でもあるイエローバックフィジューラーがたくさん群れていたこと。青い水に黄色が眩しい。そして、すぐにシルビアが、ガンガンと鈴の音を鳴らす。振り向くと2匹のハンマーヘッドシャークが棚の上を泳いでいた……！撮影できる距離ではなかったので、私は眺めていた……でも、シルビアはかなり興奮して、マスクの中の目は大きく見開いていた……（笑）。ハンマーヘッドシャークは、とても珍しいそうだ！そして、メジロザメやネムリブカを撮影しながら、私はジンベエザメでも出てこないかな……と期待しながら、ずっと待っていた。しかし、そんなハンマーヘッドに続いて、幸運は何度もやって来ない。ね（笑）。



MADAGASCAR

Travel



ジンベエザメ情報

8月～12月は、ジンベエザメのシーズンのようで、高確率で目撃、スィムができるとのこと。エリアは、外洋に近いポイントで、ダイビングで会える可能性もあるが、基本的にはスノーケリング。ボートから鳥山を見つけ、そこを目掛けて泳いでいくと、プランクトンを狙って集まってきたツナや他の魚たちと一緒に泳ぐジンベエザメと泳ぐことができるそうだ。3日間ダイビングを行うと4、5回は会える可能性があると言ってくれた。上の写真はダイビングセンターからお借りしたもので、ツナと一緒に泳ぐジンベエザメの写真は、他では見たことがない。素晴らしい！また、珍しいクジラにも遭遇できるとのこと。ナガスクジラの仲間で、ツノシマクジラも時折出現するとのことだった。会ってみたい！（photo by FOREVERDIVE）



鍵井色に染めたい……(すみません)

2本目は、外洋から少しインサイドに入ってきた、ケモーイベイというポイントへ。ただっ広い海の真ん中でなんの目印もないが、ここは、お魚がどわーっと群れているらしい。とシルビアが手を加えて、大きなジェスチャーで教えてくれた。エントリーして、まずウミウシを見つけてもらった。水深は15mほど。ウミウシの写真集を出したばかりの割に変わらず名前はわからないけど、アフリカの海にいるのだから多少は珍しいのではないかと、少ししつこく？撮影をする。そして、潮の当たる先にシルビアが進んでいるので付いていくと……。まずカマスの大きな群れに迎えてもらい、近くを見るとコショウダイとキンセンフエダイが群れていたで、その中にも紛れ込む……。青く優しい光が海底に降り注ぐ。距離を置いて眺めるキンセンフエダイが様々な形に変化するので、シャッターをどんどん切ってしまう。そこにトッピングのようにカマスの横棒が降りてくる。ゆっくりとゆっくりと。それはそれはとても優しい時間のように思えて、鍵井色でこの景色を撮影してしまう。いろんな海のいろんな景色を鍵井色に染めて、特徴がないようにするのは、あまりしない方が良くかな？と思っているけど、ここは、この色がとても似合う色だった。





ノシベのシーズナリティー & FOREVER DIVE

MADAGASCAR

Travel

ノシベの海にもシーズナリティーがある。例えば、8月から10月中旬までは、ザトウクジラが回遊してくる。一緒に泳ぐことはできないが、ボートの上からのウォッチングは可能となる。そして気になる大物のジンベエザメは、8月～12月まで、確率を聞くと、例えば3日間滞在した場合、多いときには、4～5回ほど会えるとシルビアは教えてくれた。昨年は、この海域に300匹のジンベエザメが確認されたという。それに合わせてではないが、やはりダイビングのベストシーズンも9月から12月とのこと（取材は7月で、少し早かった……）。そして、1月10日～3月終わりまでは、クローズとのこと。もちろんダイビングは可能だが、雨季のシーズンで、サイクロンや強い雨の日もあるので、クローズするという。4月～6月、水温が29～31℃ほどあり、とても快適にダイビングをすることができる。4月や5月には、ヨーロッパのイースターホリデーなどがあるので、ダイバーで賑わう。7月～9月は水温が25～26℃と低め。ちなみに取材を行った7月は、水温が27℃。5mmのウェットスーツでちょうど良かった。そして、10月からまた水温が29℃くらいに上がっていく。7月～9月は、風の影響を受け、波が少し高くなる日も多いそうだ。



FOREVER DIVE

ノシベにあるダイビングセンター。イタリア人女性インストラクターシルビアとフランス人インストラクターのローランドが経営するダイビングセンター。ノシベには、いくつか老舗のダイビングセンターがあるが、シルビアは、ノシベでの経験が20年以上あり、もっともノシベを知るダイブガイドである。また、以前マダガスカル航空が直行便を成田から就航しているときは、今よりもノシベに来る日本人ダイバーも多く、シルビアは日本人ダイバーのケアの仕方を知っている。かつ、彼女は日本人ダイバーに良いイメージを持っているので、嬉しい。ダイビング用のボートを2隻所有。基本的にダイビングは午前中に2ダイブ。朝7時半ごろにビーチでピックアップしてもらい、2ダイブを終えて、ホテルに戻るのが、12時半くらいになる。タンクはアルミで、ナイトロックスはない。レンタル機材は豊富に準備がある。町の近くにチャンパー施設あり。



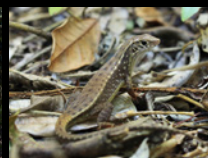
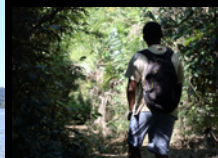
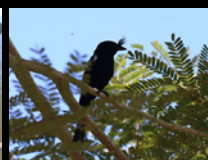


MADAGASCAR

Travel

ルクベ自然保護区観光ツアー

最終日の1日、ルクベ自然保護区観光ツアーに参加してきた。8時半にホテルに車でピックアップに来てもらう。ガイドさんは、マダガスカル人のクラーク。会話は英語で行う。途中、不思議な木々に出会う。人工的に背が高くならないように育てられている。聞くと、イランイランという植物で、花を採り、オイルにしてバヒュームにするらしい。約40分ほどかけて、漁師村のアンバツツザバディに向かう。ここは、ガイドのクラークの生まれ育った村でもあった。そこからカヌーに乗り込み、約30分ほどかけて漕ぎ、1.5キロ離れた対岸に向かっていくのだけど、これがまた大変（笑）。もちろん、漕がなくても強靱な肉体を持つ漕ぎ手さんが漕いでくれるのだけど、「私も日本男児」と思い、必死に漕いでしまった……（苦笑）。そして対岸のビーチに着き、そこから少し小高い丘をアップダウンしながら、マダガスカルならではの生き物などを観察していく。服装は、Tシャツ、短パンに靴を履いている人が多かった。蚊よけスプレーでも対応できたが、心配な方は、長袖と長ズボンでも良いかもしれない。ただ、日差しはかなり強い。森の中に入り、まず出会ったのが、キングオブパートと呼ばれる頭に王冠のような毛があるジョングジョング。そして、2種類の蛇を見て、次に頭上を見上げるとスポーティレモンというお猿さん。お目目が大きくて、可愛い。漕で30分ほど休憩をし、毒を持たない派手なカエルを見せてもらう。そして、木の上でトグロを巻くボアと呼ばれる大きめの蛇を観察し、最後は、木に擬態するトカゲや、世界で一番小さなブッケーズヤミニマという2cmほどのカメレオンを見せてもらった。合計2時間ほど森の中にいたかな。そして、またカヌーを漕いで、程よく疲れた頃に、村のレストランで昼食。ホテルに戻ったのが、3時くらいとなった。なかなか充実した森での1日となった。





バテュマチ



ザ ラグーン



MADAGASCAR Travel

サンガー



海岸線のおすすめレストラン、 そして、ドルではダメですよ！ アリアリを用意して！

約2キロに伸びるアンバトゥルアカの海岸線には、露天のお土産屋さん、マッサージ、ホテル、レストランが建ち並ぶ。12時半頃にダイビングから戻り、そこから、昼食やレストランに繰り出す。いくつもレストランがあるが、シルビアにお勧めのレストランを聞いて行ったので、ご紹介。まず、今回滞在した Le Transat からのお勧めは、海を見て右側に200mほど行ったサリマノフというこじんまりしたホテルの1階にあるバテュマチというレストラン。広い店内は清潔感があり、海の見えるレストランという感じ。料理は肉料理、魚料理、マダガスカル料理、また寿司や刺身や春巻きなどのアジアメニューもある。金額は、1料理、20,000～25,000 アリアリと少しツーリスト値段になっているが、それでも安価には変わらないので、安心して楽しむことができる。ちなみにお勧めのビールは、THB だそう。そして、Forever Dive の近くにあるサンガーというこれまた海沿いのレストラン。店内はしゃれた感じで、料理もサラダとキッシュなどの女性系のプレートが多い。そして、その横道に入って Forever Dive に行くまでの両隣にあるローカルレストランもお勧めとのこと。1料理 15,000 アリアリ + 飲み物が 5,000 アリアリの合計 20,000 アリアリでほぼ全てが楽しめるとのこと。そして、その近くで突撃で入った Bar Lagoon も同じようなローカル料金で、チキンを食べてみた。他に Hotel Au sable bakc の隣にある Tsimanin (ティマーリン) もお勧めということだったので、是非。基本、メニューはフランス語なのでわからないけど、値段を見て注文すれば、何かが出てきます。旅を楽しんで。少し苦労したのが、スーパーなどがあまりないので、レストランで大きなボトルの水を注文して、それをホテルに持ち帰りました。値段は、5,000～6,000 アリアリ（だいたいビール大瓶と同じ値段（笑））。と、特にローカルのレストランの支払いはアリアリしか用意していないので、必ず両替を！

ノシベの宿泊施設

Le Transat

海岸線の中央より少し南に位置するバンガロータイプのホテル。スタンダードのバンガロー6棟とテラックスが1棟。室内は広く、清潔感がある。エアコンはないが、扇風機があれば十分。天蓋カーテン付きのベットも居心地が良い。夜、蚊も発生するが、天蓋カーテンがあれば大丈夫。すべてが海に面し、就寝しながら波の音を聞き、朝日、夕日をリラックスした空間の中で楽しむことができる。レストランはないが、毎朝、朝食をテラスに運んでくれる。ダイビングに行く場合は、目の前のビーチまで、ダイビングボートがピックアップに来てくれる。

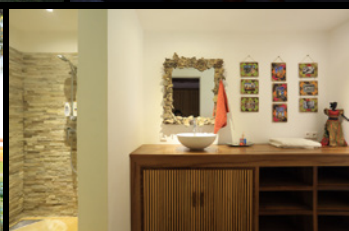


MADAGASCAR

Travel

l'heure BLEUE

海岸線の北端の高台に位置するラグジュアリーホテル。緑豊かな広い敷地内には、VIPバンガロー、スタンダードバンガロー、レストラン、プール2つなどを完備。リゾート内で、十分にホリデーを満喫することができる。ダイビングセンターからは徒歩10分ほどで、目の前のビーチまでダイビングボートは来てくれるが、干潮時は、ボートを寄せることができず、ダイビングセンターまで行くことになる。



Hotel Au sable bakc

Forever Dive からとても近いホテル。建物は2棟あり、海岸線に1棟と少し内側に1棟。海が見え、眺望の良いタイプが、アパートメントタイプ。海が見えないタイプをスタジオコンフォートとして区別する。各客室のタイプによるが、両カテゴリーとも、広い客室とキッチン、バス、トイレなどを完備。別途料金で、シェフが室内でクッキングをしてくれるサービスもある。また、広い部屋ばかりだけでなく、シングル専用のスタジオコンフォートも1室ある。

